



いもち病に強く、減農薬栽培に向く良食味水稻品種「ちゅらひかり」

水田利用部 稲育種研究室 0187-66-2773

研究のねらい

「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」等の良食味品種の大部分はいもち病に弱いため、農薬による防除が不可欠である。一方、消費者の減農薬に対するニーズは高まっており、これに応えるため生産者が手間をかけていもち病に弱い品種を減農薬で栽培するケースが増えている。

そこで減農薬栽培の普及を促進するために、いもち病に強く、「ひとめぼれ」に匹敵する良食味品種を育成した。

研究の成果

「ちゅらひかり」(ひとめぼれ×奥羽338号)は、東北農業研究センターにおいて育成され、2003年に沖縄県で奨励品種に採用され、普及予定である。

出穂期と成熟期は、育成地では「ひとめぼれ」に近い“中生の晩”に属する。「ひとめぼれ」より稈長が短く倒伏に強い。

いもち病に対しては、葉いもち、穂いもちとも“極強”で、冷害に対する耐冷性も“極強”、穂発芽性は“中”、白葉枯病抵抗性は“中”である。収量は「ひとめぼれ」並かそれ以上である。いもち無防除栽培での収量は、「ひとめぼれ」と比較して2002年は90kg/10a、2003年は132kg/10a多かった(図3)。炊飯米の食味は「ひとめぼれ」に匹敵する“上中”で、玄米品質は「ひとめぼれ」よりやや劣る“上下”である。



図1 ちゅらひかりの草姿



図2 玄米と籾(左:ちゅらひかり、右:ひとめぼれ)

成果の利活用

栽培適地は、東北中南部以南である。

倒伏には強いが、多収をねらって多肥栽培を行うと食味の低下をまねく。施肥量を適量にとどめ、良食味、良質米づくりを心がける。

穂発芽性が“中”であるため、倒伏、刈り遅れに注意する。

さらに詳しい情報は、<http://www.omg.affrc.go.jp/>をご覧ください。

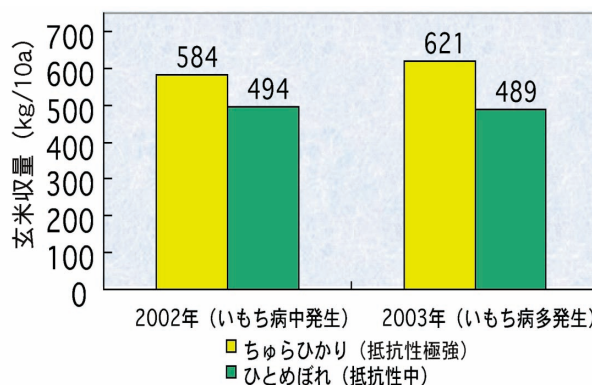


図3 いもち病無防除栽培での収量 (秋田大曲市)